

商社からメーカーに転身

アート科学社長の佐藤栄作は「いつか自分でも事業をやりたい」との思いを抱き続けていた。「思った時に欲しい物を買える。周りの社長のを見ているとつらさを振り返って笑う。

改革が必要

27歳の時に日立電機工業（茨城県日立市）を退社すると、勉強のつもりで原子力関係の研究備品や理化学

機器を扱う商社「小林理化器械」に入社。29歳で同社を後にし、アート科学へ入社した。理化学機器を扱う小さな専門商社だったアート科学に、佐藤は改革の必要性を感じていた。理化学機器の購入者は大抵、カタログから選択し、

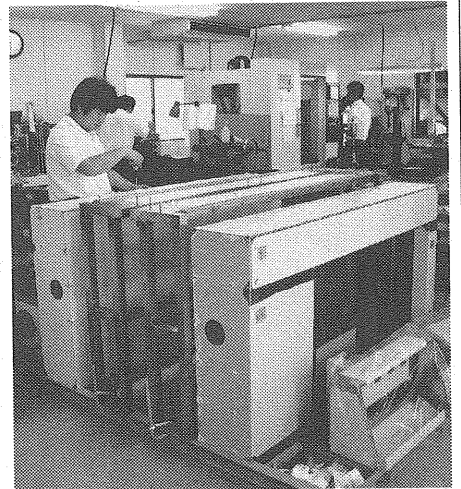
自社製作の実験装置で勝負

モノづくり工場

継続してその業者に注文する。製品の応用幅が小さい理化学機器では、結局のところ価格が勝負を決めてしまう。「小規模の商社では、資金力にものを言わせ

アート科学 ②

実のあるモノづくりを指し、95年に同社は東海村に自社工場を創業。2人の技術者を迎えた。佐藤は自分の経験から「モノづくりには何が必要でどんなコストのバランス感覚が必要



風景使用で設置した原子力関連施設の組み立て風景

から樹脂加工、一部を除く金属加工、組み立て、さらには現場での据え付け作業に至るすべての工程を引き受ける。品質確認の実験も社内で行われ、高品質な装置の供給を可能にした。「顧客はあちこちに部品や工事を注文する面倒がなく、当社も製品をほぼ内製するためコストを下げられ、内部に留保する資金が大きく」と佐藤は胸を張る。

か、直感的にわかっていない」といふ。「たとえ技術者が辞めても、いざとなれば自分がその役割を補うことができる」という強みも後押しした。この技術部門を「エヌエス精機」として独立させ、アクリルやフッ素樹脂、塩化ビニールなど

の樹脂加工のほか、実験装置の設計製作、組み立てを始めた。一貫受注体制 佐藤が目指したのは、電

話一本で実験装置が完成する一貫受注体制だ。アート科学では装置の設計・製作手法だ。（敬称略）

平和産業

内径に特殊なフッ素樹脂

小型含油軸受、長寿命化

静音・省エネ化も 3種類を国内投入

またLDFメタルは、フッ素樹脂と金属成分を合わせた被膜をコーティングし、消費電流を抑えるなどへの需要を見込む。

羽根なしのコンクリートミキサ

チヨダマシナリ（埼玉原杉戸町）のオムニミキサ（写真）が発売から20年を迎

販売以上

え、累計販売台数2000台を越えた。販売地域は国内だけでなく、北米、南米、東南アジアなど全世界的で、現在も年間50台以上が販売されている。

チヨダマシナリ

る材料を入れたゴム製の座を高速振動させて混ぜ合わせる仕組材料を均一に混練材料強度も一般のミキサーより約3倍強くなる。粉末表

鹿兒島

【鹿兒島】鹿兒島県出水市立地協定を結ぶ高尾野内陸に新工場を建設する製造装置

スズキ工場

【福島】スズキ（福島県棚倉）社長、02